

# 保養のススメ

あつという間に夏休み！  
 ころとカラダをのびのびさせよう！今年の夏は  
 保養に出かけてみませんか？

## ★南アルプスで果物・野菜の収穫体験！

保養先：山梨県南アルプス市

期間：8月16日(火)～20日(土) 4泊5日

対象：福島県の小学3年生～6年生8名

参加費：5,000円予定(福島からの往復旅費・宿泊・食費・保険など含む)

ここでできること：川遊び、果物・野菜の収穫体験とバーベキュー  
 富士山5合目ハイキング、温泉入浴

主催団体：放射能から福島の子どもたちを守る山梨の会  
<http://counterrad.exblog.jp>

TEL: 090-9347-3621 (今村)

問い合わせ：E-mail: counterradiation@joy.ocn.ne.jp  
 ※募集は6月20日～30日の予定

## ★富士山のふもとで過ごし

保養先：民宿「大臼荘」(標高929メートル)  
 山梨県南都留郡忍野村

期間：8月16日(火)～18日(木) 2泊3日

対象：福島県在住の3歳以上のお子さんとその保護者20人ほど

参加費：大人1人5,000円、子ども(高校生以下)1人2,000円 交通費・宿泊費・食費は無料

ここでできること：水遊び、広い野原でドッジボール、川魚の水族館見学、忍野八海散策、うどん打ち

主催団体：NAZEN(すべての原発いまずぐなくそう！全国会議)東京・保養プロジェクト

申し込み：080-8706-4915(伊谷)

5月15日(日)午前10時から募集受け

## ★勝浦の自然の中で遊ぼう

保養先：民宿神田(勝浦市)

それぞれの団体の案内チラシは診療所に置いてあります

期間：7月22日(金)～26日(火) 4泊5日

対象：7～8家族程度  
 定員埋まり次第、締め切らせていただきます。

参加費：宿泊・食費は無料、交通費は負担願います

主催団体：避難プロジェクト@ちば 原発なくせ！ちばアクション  
 5月末日で募集を締め切り

## ★青森 ねぶた祭り参加！

保養先：まきば保育園  
 八甲田山麓の自然の中にあります。

期間：8月1日(月)～4日(木) 3泊4日

対象：福島県及び放射能汚染地域に住む小学生以下の子ども ※保護者同伴 6家族25人ほど

参加費：1家族5,000円 ※障がいがある子どものサポートします

ここでできること：跳人(はねと)の衣装でねぶた祭りに参加、音楽イベント、地元の子どもたちとの交流

主催団体：保養プロジェクト@あおもり

問い合わせ：090-8784-2034(さくま)  
 6月20日(月)午後7時から募集受け

## ふくしま共同診療所 報告会

### いわき市

とき：5月22日(日) 13時～

ところ：LATOV(ラトフ)6階  
 産業創造館セミナー室JRいわき駅南口

「放射能被曝隠蔽と対決する今、  
 求められる医療とは」

<お話> 杉井 吉彦 医師 深谷 邦男 医師

### 伊達市

とき：5月28日(土) 13時30分～

ところ：保原産業振興会館 2階大研修室  
 「今、福島で何が起きているのか」

<お話> 布施 幸彦 院長

## 編集後記

九州・熊本大震災は、ふたたび「フクシマ」を繰り返すことになんのためらいもないこの国の姿をあらためて教えてくれた。彼らの言う「安全」を信じての再稼働や帰還のさきには、ロシアンルーレットさながらの絶望しか見えない。自分たちの命は自分たちで守ろう。医療を私たちの手に取り戻すこともそのための大事なひとつだ。(え)

## ふくしま共同診療所 Newsletter

# ここから通信

第13号 季刊-春・夏号-

診療時間：9:30-12:30/14:30-18:00

	土	日	月	火	水	木	金
午前	●	●	●	●	-	●	●
午後	●	●	-	●	-	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

## 小児甲状腺がん167人に。本格検査途中でなぜ「中間とりまとめ」?

2月15日、第22回県民健康調査検討委員会が開かれたが、唯一の甲状腺専門家である日本大学清水一雄名誉教授をはじめ、16人中6人の委員が欠席。星北斗座長は記者会見で会議の内容に対する質問が続出するなか、途中退席。「ここに甲状腺がんの患者さんがいたら、この状態を見てどれだけ異常なことが福島で起きているのかを痛感することだと思う。人の命を預かる仕事に誇りがあるなら、こういう問題に時間をとってきちんと回答すべきです。」との記者発言があり会場からもブーイングが起こった。

小児甲状腺がんおよび疑いは、前回発表から14人増加し167人。先行検査(一巡目)116人、本格検査(二巡目)51人が小児甲状腺がんと診断され、そのうち117人が甲状腺摘出手術を受け、116人ががんと確定した(良性1人)。前回同様、先行検査で増えた2人は口頭で報告し詳細は明らかにしなかった。本格検査で見つかった51人中47人は、先行検査で異常なし(A判定)とされてきたにも関わらず「進行が遅いとされてきた小児甲状腺がんが、短期間に新たに発症したのか、先行検査での見落としがあったのか」という重大な議論が数分で打ち切られた。

委員会で最終案が提示されていた「県民健康調査中間とりまとめ」を3月30日発表した。「我が国の地域がん登録で把握されている甲状腺がんの罹患統計などから推計される有病数に比べて数十倍のオーダー(程度)で多い甲状腺がんが発見されている」としな

がらも「被ばく線量がチェルノブイリ事故と比べて総じて小さいこと」、「被ばくからがん発見までの期間が概ね1年から4年と短いこと」、「事故当時5歳以下からの発見はないこと」という理由から、これまで同様「放射線の影響とは考えにくい」とした。

しかし、この結論に反論もなされている。『世界』(岩波書店)3月号でロシア研究者である尾松亮氏は、2011年ロシア政府が発行した「ロシア報告書」を紹介し、チェルノブイリの状況が正しく伝えられていないと、以下大きく3点を指摘した。

- ①ロシアでは数ミリ～数十ミリシーベルトの被ばく線量地域でも小児甲状腺がんが増加した。
- ②事故の翌年には甲状腺がんが増加した。
- ③事故時5歳以下の小児甲状腺がんは、約10年後に増えたのであり、事故直後から増加したのは15歳～19歳の子どもであった。

本格検査途中でがんが多発した原因も追及しない、反対意見を検討すらしないで、被ばくの影響を否定する中間とりまとめを発表したのは、避難区域への住民の帰還強制を押し進めるためにほかならない。二次検査を半年待たされた、子どもの目の前でがんを告知された、ほかの病院での診察を拒否された、と保護者がとうとう怒りの声をあげた。これではとても県立医大を信頼して子どもの検査を任せすることはできない。私たちが子どもたちを守るために、被ばくの現実と向き合い、ともに生きるための医療を取り戻しましょう。

早期発見、早期治療が大切です。

健康を守るために大人も子どもも検診を受けましょう!

お問い合わせ、ご予約はお電話でどうぞ 024-573-9335



### 福島市 市民検診

受診期間：6/1～10/31

一般の検診の他、下記の検診が受けられます

- 肝炎ウイルス検査 ●大腸がん検診(一次)
- 肺がん検診(一次) ●前立腺がん検診(一次)
- 骨粗しょう症検診

### 甲状腺・乳腺エコー検査

検査日	土	日	月	木	金
午前 9:30-12:30	○	○	○	○	○
午後 2:30-6:00	○	○	-	-	○

○→甲状腺エコー ♥→乳腺エコー

※土曜日の乳腺エコーは女性技師が担当します